# 小学校音楽「豊かな表現の工夫」をめざした実践の分析
## ―身体表現を軸とした事例から―

大　谷　恵　世

### はじめに

音楽とは、人間の成長・発達にとって欠くことができないものである。しかしながら、学校教育において、音楽に触れる機会は貴重かつ希少であって、その役割は計り知れないほど重要である。それゆえ、小学校の音楽科の学習においては、子どもたちが生涯を通じて音楽を愛好し、生活の中に音楽を生かそうとする心を育む必要があり、そのために、子どもの個性や創造性を重視した学習活動を進めていくことが必要であると考える。

他方、2008年、学習指導要領の改訂が行われた。その中で、「生きる力」と言う理念の共有を目指すものとした。「生きる力」とは、社会のグローバル化の中で、確かな学力・豊かな心・健やかな体の調和を重視したものである。このことは、ことさら小学校の音楽科の学習においては、豊かな心の醸成を担うものとして位置づけられる。そして、言わば、「心の教育」の実践の場として小学校の音楽科があるべきではないのか。

「心の教育」の履践、個性・創造性の重視には、心の表現力を育む教育が必要である。心の表現とは、すなわち、心が身体に乗り移って身体が表現することであって、子どもからいかに豊かな身体表現を導けるかが、音楽科教育において最も重要であると考えるのである。そこで、私は、子どもたちの心を開放し、豊かな表現の工夫として身体表現を軸とした教育実践の内容・個々の実践の目的を明らかにしたいと考える。

### 1　身体表現の捉え方

「身体表現は精神活動の身体の活動であり、身体の活動は精神活動である。身体表現は意識的なものから無意識的なものまでを含めた精神の活動が、身体の諸器官を介して表現されるすべての活動を意味することになる。」と述べられている。無意識的なものは、手振り身振り、アイコンタクト等、感覚的なものといえる。他方、意識的なのものは、言語が代表であり、記述的なものといえる。後者の具体的なコミュニケーション媒体としては、文字が容易に想起でき、多様に考えられるが、双方を包含したものは、記述的要素と感覚的要素を持ちあわせた音であり、音楽である。

音楽が有している、記述的要素としては、心に宿った感情や感動を相手に伝えるために、イメージを持ち、それを言語化することである。言語化するといっても、イメージの共有の伝達の手段としてのみされる。したがって、音楽における身体表現の意識的なものといっても、必然的に簡易で非論理的なものになる。近時、社会の環境の変化に伴い、子どものコミュニケー

ション能力不足が指摘されるが、音楽の身体表現の特質からみて、音楽教育は他教科以上にその問題の解消に有益であると考えられる。

このように、音楽における身体表現は、意識的なものであるといっても、人の内にある感情･感動を共有するためのものであって、コミュニケーション媒体として独特なものである。すなわち、音楽のもつ非論理性、簡易性が人と人とのつながりを深化させるのである。

## 2　身体反応から身体表現へ

学習指導要領の音楽科の目標に「表現及び鑑賞を通じて、音楽を愛好する心情と音楽に対する感性を育てるとともに、音楽活動の基礎的な能力を培い、豊かな情操を養う。」とある。低学年の「鑑賞」指導のなかに身体反応の快さを感じ取りやすい音楽、日常の生活に関連して、情景を思い浮かべやすい楽曲を取り扱うことが明記されている。鑑賞指導において、楽曲のどの部分が気持ちを向上させ自然に身体が反応するのか、また、どの音の刺激が身体の一部を反応させるのかを観察する必要がある。この身体反応こそが低学年においてはとても重要であり、指導目標に迫る視点にもなりうる。

これらの低学年で培った身体反応を基盤に、高学年では、リズム、旋律に対する感覚など基礎的な能力を身に付けさせることで豊かな感性が高まると考える。しかしながら、先述したように、音楽における身体表現が、コミュニケーション媒体として重要であることから、身体反応のみを指導の対象とするのではなく、身体表現にいかにつながっていくかの部分を含めて対象にするべきであると考える。

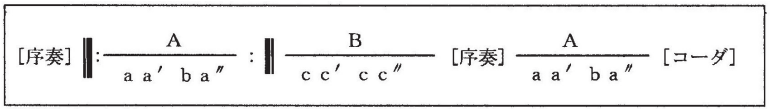
身体反応から身体表現につなげていくことは、感じとったことそのものから、それをイメージ化し表現し伝えることに変えることである。しかし、児童にとっては、生活経験の少なさからなかなか困難である。そこで、映像・写真・情景画等、視覚教材の工夫はもちろん、学習活動のなかでイメージを膨らますための場面設定が極めて重要になるのである。

## 3　身体表現を取り入れた事例

### （1）事例１　低学年教材　鑑賞曲「おどるこねこ」

アメリカの作曲家ルロイ・アンダソンの作品であるこの楽曲は、子どもたちにとって親しみやすい曲であり子どもたちの大好きな「猫」「犬」が登場する。猫の鳴き声はバイオリンが演奏し、犬の鳴き声も組み込まれている。楽曲の説明をせずに子どもたちにこの曲を聴かせてみると、ゆったりと身体をゆらし始める。いわゆる身体のゆれとした身体反応をする。

次に楽曲の題名を「おどるこねこ」と提示するだけで子どもたちは、口々に「にゃーお」と鳴きまねをしながら猫の手の動きを表現する。この動作を見ているだけで子どもたちが自分なりの猫のイメージを描いていることがわかる。




この楽曲の構成は上図の通りである。Aのテーマの部分では猫の鳴き声がバイオリンの表現（ポルタメント）で演奏される。そこでAのテーマを子どもたちに聴かせてみると、繰り返し出てくるバイオリン表現（ポルタメント）のおもしろさに興味を持ち、その部分が出てくると猫の鳴き声に似ていることに気付く。そして、曲に合わせてゆったりとした3拍子を感じて動き（写真ア）何度も猫の鳴き声や猫の鳴いている様子を身体で表現し始める。次にAの部分だけを取り出して繰り返し聴かせると身体表現をしながらテーマのメロディーを覚えて、口ずさめるようになる。続いて全曲聴かせるとAの部分とBの部分の変化に気付き大きな動きの身体表現（写真イ）をする。最後に出てくるコーダの部分では、犬の鳴き声から猫が逃げ回っている動きをリアルに表現する子どもたちが増える。テーマの変化に気付き、猫が楽しく遊び踊っている様子を感受し、表現することが出来ていると考えられる。また、テーマごとにイメージしたことを言葉で発表する活動をさせると、下図のような思いを発表した。この言葉から猫の動きを想像した言語が多いことと、テーマの違いを感じ取った言語表現をしていることがわかる。

| | 子どもたちの発言 |
|---|---|
| Aのテーマ | おどっている。　ゆれておどっている。ゆかい。かわいい。<br>ねこがいっぱいいる。写真ア |
| Bのテーマ | けんかしている。あそんでいる。たのしんでいる。おまつりみたい。<br>よろこんでいる。写真イ |
| コーダ | ねこがにげる。いぬがおいかける。ねこがおいかける。はしる。<br>キャーつかまる。ねこがおこる。 |

これらの言語の発展として、友だちと相談しあって「猫の国の物語」のお話をつくるという意欲的な活動に発展した。以上のことから音楽を感じ取る趣旨を踏まえた身体表現は子どもたちの創造性を養うばかりでなく他者との協調性をも高める学習意欲につながると考察できる。

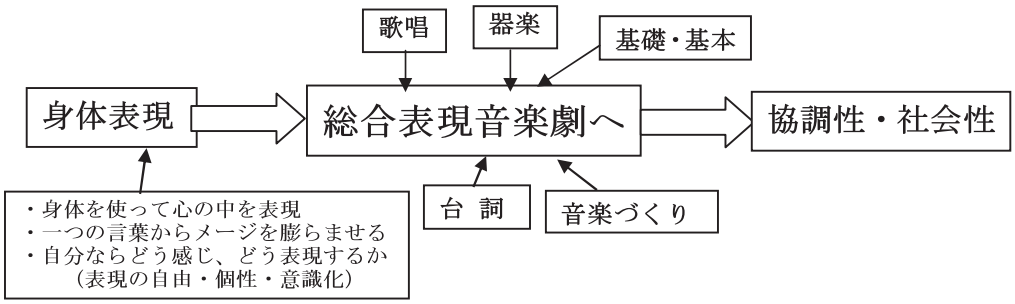
**写真ア**

**写真イ**

**（2）事例２　高学年教材　音楽劇「おしいれのぼうけん」**

低学年の子どもたちはあらゆるものに興味関心をもち、素直に表現することができる。特に身体表現の指導においてはリズム遊びや手遊びなど指導の手立てが多くある。しかし、高学年の児童は心身の成長に伴い自分の想いを素直に表現しにくい現状にあり、心の思いとはかけ離れた発言や行動をとる場合が多い。それゆえに心を映し出す音楽学習においては厳しい状況にあると言える。ましてや自分の身体を動かし表現することは、心が閉ざされたガチガチの状態で豊かな音楽表現活動を求めるようなものであり、それは不可能に近い。その活動を活発化すためには、子どもたちの心を開放し、自分や友だちの表現を受け入れられる雰囲気をつくることが大切なのである。

それらを実現に向かわせるために、無意識におこなっていたアイコンタクトやボディタッチなどを意識化したゲームとして身体表現をおこなうことが有効である。例えば、風船を上に放り投げそれをキャッチしたり、風船を二人で投げあったりする。次に風船を持たずに手の中に風船があるような気持ちで同じ動作を繰り返す。このような活動は和やかな雰囲気をつくるだけでなく、児童の照れもなくなる。また、やわらかい風船を使った活動は手のひらが感覚として覚えている風船のやわらさを身体で表現する。このような身体を使った活動の積み上げは総合表現としての「音楽劇」の活動につながる。また、「音楽劇」を教材として扱うことは教科目標の「Ａ表現」領域を一つの教材で指導できることになる




「おしいれのぼうけん」は、ふるたたるひ作の絵本である。いたずらをして先生に叱られた保育園の園児たちが怖い押入れに入れられる。押入れには怖いけれどもいろいろな冒険が待っている。みんなで力を合わせて冒険を終えて押入れから出てくるというお話である。低学年向きの話ではあるが高学年の児童もとても好きである。（脚本）盛山由美、（音楽）平島勉の両先生が音楽劇に仕上げた作品を実践した事例を述べてみよう。

この作品を教材として用いる理由として

①　場面のイメージがしやすい歌唱曲が挿入されている。

②　身体表現を用いた活動を計画しやすい場面が多い。

③　幅広い音楽的活動（音楽づくり等）の計画が可能である。

以上３点をあげることができる。理由①と②においては共通の指導になる部分が多い。

| |
|---|
| にげろにげろ　トンネルの中　はしれはしれ追いつかれるな<br>まてまてまてまて　つかまえてやる　ゆけゆけゆけゆけ　ねずみたち |

上記は劇中に歌われる挿入歌である。見てわかるように追うものと逃げるものを対比した歌詞内容である。児童を２つのグループに分けそれぞれの表現を工夫させる。

にげろ　にげろ・・・腕を大きく振りながら急いで走って逃げている様子を身体表現する。

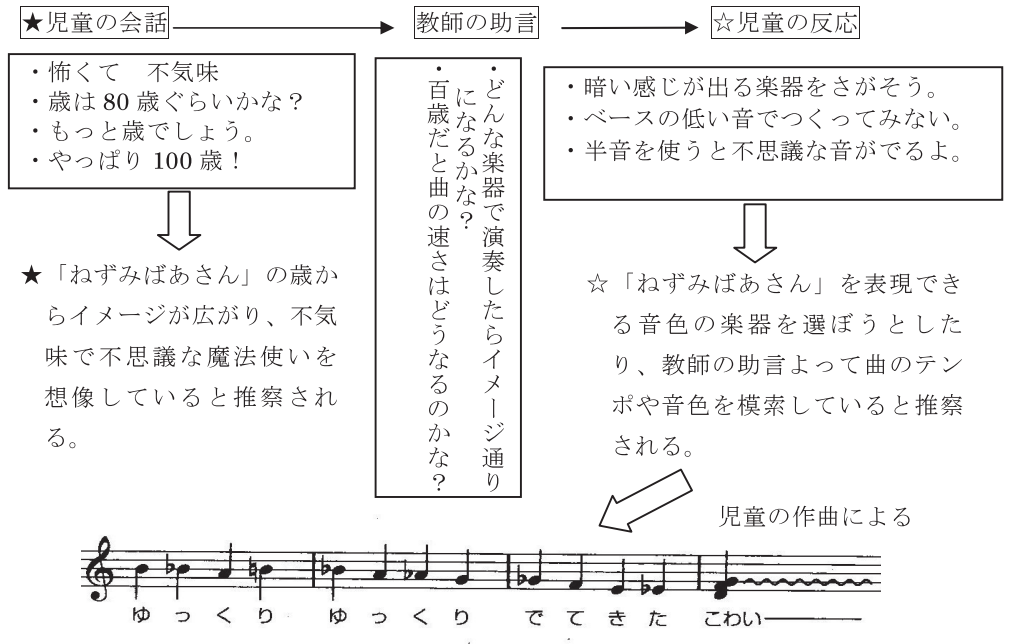
まて　まて・・・・・多数のねずみが捕まえようとして迫ってくる様子を手を前に突き出し身体全体で２拍子のリズムを感じて身体表現する。

このように歌詞のイメージや音楽のリズム、旋律からどのような動きがふさわしいかを考え、グループで揃った動きの表現を考える。友だちと意見交換し共通理解することで仲間意識が強くなり、学習意欲も高まる。また、子どもたちの表情も明るく生き生きとして活気に溢れた場がつくられる。

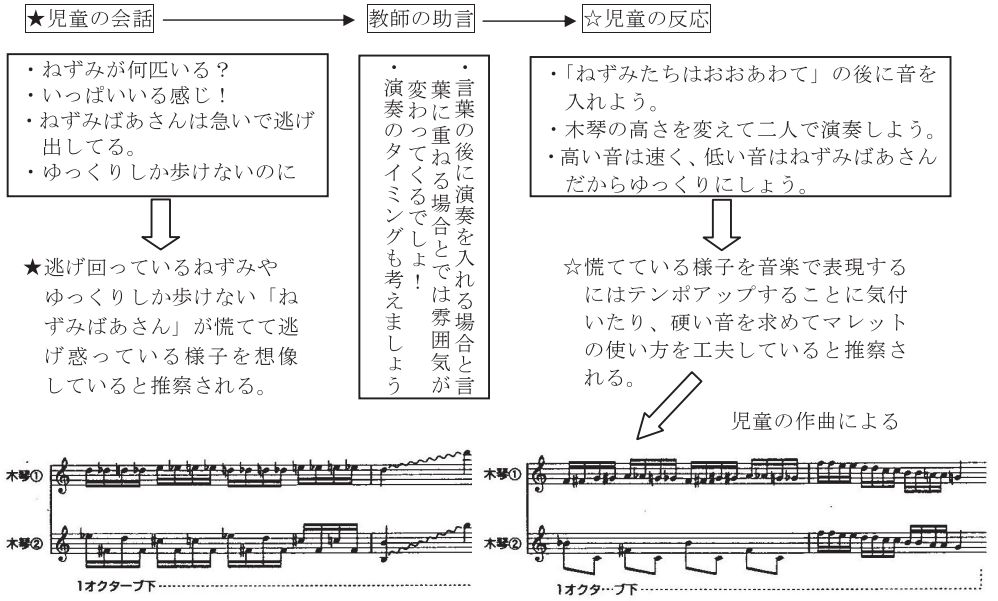
次の活動は「おしいれのぼうけん」の台詞から場面をイメージした音楽つくりの試みである。

物語の中で音が入るとわくわくするところはどこかの質問に対しての選択した台詞と音楽づくりは下図である。（一部である。）

| 場面 | 選んだ台詞 | イメージ | 選んだ楽器 |
|---|---|---|---|
| 25 | 「ねずみばあさんが壁から出てきた」 | こわさ・きつさ（低い）<br>80歳ぐらい？ 100歳！ | ベース |



| 場面 | 選んだ台詞 | イメージ | 選んだ楽器 |
|---|---|---|---|
| | 「ねずみたちはおおあわて」 | あわてる | 木琴　音の高さ<br>木琴　音を高く |
| | 「さすがのねずみばあさんも逃げ出してしまった」 | 悲鳴のように | バチをグロッケン用で |




低学年は「鑑賞」指導に身体表現を取り入れることで、身体全身でリズムや旋律や曲想を体感することができる。また、その体感は子どもたちの意気を高め、自ら音楽を楽しもうとする心情を育むものであると考察できる。これらのことから、「身体表現」と「鑑賞」を関連させる意義があると考える。

一方、高学年においては、「A表現」の活動の一つとして位置づけされている「音楽づくり」の事例を取り上げた。その教材として用いた「音楽劇」は音楽的活動を含めた幅の広い活動を計画、実施できた。活動の一つの身体表現は心を開放し、仲間との意思の疎通をはかり、次の学習の意欲をかきたてる結果が見て取れた。特に「音楽づくり」は意思の疎通が出来ていないと活動しにくいが、心の通じ合いは、自分や仲間の思いを尊重し一つの目標に向かえる態度を育てると実感した。「音楽づくり」は自分たちのイメージを音や音楽で表現する活動である。しかし、ややもすると効果音や音の表現になり、音探しや音遊びになりがちである。それゆえ、音をどのように音楽にしていくかという見通しを持った指導計画が必要であると考察できる。

### （3）題材「豊かな表現の工夫」 教材「銀河鉄道の歌」6年生　授業の実際

①題材解釈

子どもたち一人ひとりが創意工夫して創り出した、音楽や話や身体表現を組み合わせて集団

で一つの作品に創り上げる経験は、自分たちの思いやイメージを生かして豊かな表現活動をする喜びを創ると同時に子どもたちの主体性や協調性も伸ばすと考える。高学年は何事においても自分たちで創ることに興味関心を持つ時期でもある。この時期に作品を創り上げるために必要な知識や念入りな準備の必要性を学んでほしい。また、学習したことから自分なりの考えを持ち、自分のものとして表現することで感性や判断力を高め幅広い表現活動を繰り広げてほしいと考えた。

②教材性のポイント

題材目標に近づくための教材として「銀河鉄道の歌」とした。この曲は宮沢賢治の小説「銀河鉄道の夜」のイメージをもとにつくられた歌である。この物語の中の列車に乗って銀河を旅する部分が教材として取り出されている。原作では、この部分が主人公の体験する不思議な夢として扱われているが、そこに展開する様々な場面は星の光に彩られた幻想的な世界である。「銀河鉄道の夜」を読んであらすじを知ったりして一人ひとりの自由なイメージで情景を想像し、そこから思い浮かべた様々な想像や空想を小さな物語としてまとめることも出来る。また、イメージを音や音楽で表現することも出来る。宇宙、星座、銀河。一つ一つの星の名前などから思い起こすイメージをもとに、グループごとに音とナレーションによる表現にまとめ、歌でつないでいくような構成を工夫することが出来る。

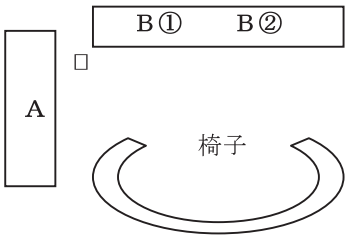
③「鑑賞」との関連

宇宙をテーマにした音楽といえばポピュラーの世界では、ジョン　ウイリアムズがSF映画「スターウォーズ」のために書いた作品がよく知られており、子どもたちも親しんでいる曲である。クラッシクでは、ホルストの管弦楽組曲「惑星」が挙げられる。「惑星」では太陽系の７つの惑星についてそれぞれの性格、雰囲気を描いたもので、各曲には惑星の名前とその星のイメージが記されている。

第１曲「火星」（戦争をもたらすもの）
第２曲「金星」（平和をもたらすもの）
第３曲「水星」（翼のある使者）
第４曲「木星」（快楽をもたらすもの）
第５曲「土星」（老いをもたらすもの）
第６曲「天王星」（魔術師）
第７曲「海王星」（神秘主義者）

子どもたちに４曲を選ばせ自分たちでお話と音楽づくりの活動を展開した。銀河の世界は、地上と約束の違う世界であり、地球では考えられないことが実現する。これら夢の惑星をつくる学習である。前時には、惑星を選び、実際の惑星を調べ、惑星の絵を書き、希望の星に変身させる等の活動を行っている。

**授業記録**

| 時間 | 教師の指導・援助 | 児童の動き | 分析の視点 |
|---|---|---|---|
| 0 | ☆動きたいけど動けない？<br>動きにくいかも知れませんがぎりぎりまで行ってかまいませんから、自分の心を広げて思いっきりみんなに見せてください。<br>☆初めての先生に見せてください。いつもは先生が貴方たちのすばらしい表現を見てますからね。<br>他の先生たちに見せて！ | ＊教室後部に「コ」の字型になって椅子に座っている。（教室中央部は広く開いている）<br>  <br> | A：教室側面掲示<br>側面一面に宇宙と星と惑星のイメージ画<br>B：前面黒板掲示<br>①：心の開放／イメージ／表　現<br>②：声　で／体　で／言　葉で |
| 1 | ☆はい、じゃあ、「翼をください」用意はいいですか？ | ★三人立ち上がる。 | |
| 2 | ＊CD で「翼をください」を流す。<br>☆だんだん自分の世界に入りなさい。<br>□CD 演奏に合わせて、黒板の前で身体表現をする。 | ★一人がゆっくりと前に進み出る。<br>★音楽に合わせて腕を広げゆっくりと上下させる身体表現をする。<br>★徐々に一人ひとりが立ち上がり、思い思いの場所で身体表現を始める。 | イメージから自己表現<br>表現活動１<br>身体表現 |
| | | ★広がりを感じる動きになる。 | 視点１－① |
| | ☆そう！あなたの好きな所へ飛んで行って！ | ★教室いっぱいに広が自由に動く。<br>―2 番に入る―<br>★ほとんどの児童が片ひざをついた姿勢をとっている。 | |
| 3 | ☆そうです。もっと遠くまでいってごらん。<br>☆「音をよく聞いて。」<br>☆しっかりイメージして！<br>☆自分の気持ちで動いていいのよ。 | ★「♪夢見たこと～」から立ち上がる。<br>★ゆったりとした動き、1 番と動きのパターンは変化しないが躍動的になる。<br>★「この大空に～」からは動きに力が入り、手の動きが大空に伸びている。 | 視点１―② |
| | ☆はい、夢見てください。 | ＊ＣＤ演奏終了<br>★それぞれのポーズで止まっている。<br>◇席にもどる。 | |
| | ☆さあ！　飛んでゆけー。<br>☆もっと！　遠慮しないで。 | ■感想を口々につぶやく。 | 表現活動Ⅱ<br>言葉で表現 |
| | | ◇全員椅子に座ってピアノの演奏を聞いている。 | 視点１－③ |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | | ■イメージできた児童から一人で前に出てイメージ文を語る。語り終えるとその場に座る。 | 言語表現 |
| | ☆はい、座ってください。 | ■今語っている児童の言葉が終わるタイミングを計って言葉が重ならないように配慮し合って言葉による表現をする。 | |
| | ☆充分出し切れましたか？<br>まだ、少し心が開放されていないようですね。 | | |
| | ＊ピアノへ移動<br>☆はい！イメージ文<br>必ずみんなの中で聞こえる声でスピーカーに向かって言いましょう。<br>◇「翼をください」のピアノ伴奏を演奏する。 | ①真っ白な翼をつけてどこまでも飛んでいきたい。<br>②広い海の上を真っ白な翼をつけて飛んでみたい。<br>③心の中にあった悲しみが全部消えて自由な空に飛んでいった<br>④真っ白な翼をつけてあの大空へ飛んでいきたい。<br>⑤鳥といっしょにどこまでも飛んでいけたらいいのに。<br>⑥真っ白な翼をつけて真っ青な空を飛んでみたい。<br>⑦真っ青な空から真っ白な羽根が…<br>⑧あの空を駆け巡る。<br>⑨大きな翼をつけてどこまでも広がる空を飛んでみたい。<br>⑩真っ白で大きな翼。<br>⑪大きな翼で<br>■次々に前に進み出て語る。言葉が重なりあう。 | |
| | | ■全員が語り座った。 | 視点１－④ |
| | ◇ピアノ伴奏終わる<br>☆それじゃあ、今の体の動き、そして、自分のイメージ文をたっぷり入れながら次は声で…いいでしょうか？　歌いましょう。 | ＊全員その場で立つ。 | |
| | ◇「翼をください」のピアノ伴奏<br>☆息をすってしっかりと！ | | 表現活動Ⅲ<br>歌で表現 |
| | ☆どう？今日は楽に歌えた？<br>◎今日は出来たねえ、すごくいい伸びていました。でも、「♪この大空に」はもっとほしい。 | ◎全員で「翼をください」の二部合唱をする。<br>＊その場に座る。 | 視点１－⑤ |
| | ☆じゃあ、もう一つだけ表現してもらおう。「銀河鉄道の歌」体で表現して、歌ってもらおう。イメージ文なしでいいかな？ | | |
| | ☆はい、じゃあ動きます。「夢をいざなう」って？周りの先生たち誘ってきなさい。もし、手が | ★全員、周りの人たちに握手する。 | 表現活動Ⅳ<br>身体表現 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | 触れたら触ってきなさい。あなたたちの気持ちのいい手の動きで。 | | |
| | ☆宇宙で握手！ | ★宇宙で握手！ | |
| | ☆みんなで握手！ | ★みんなで握手！ | |
| | ＊CD で「銀河鉄道の歌」を流す。 | ★数人席を立ち、前に進み出る。 | |
| | ☆さあ！いざなっていくよ。<br>周りの先生のところへ行っておいで、手でいざなっていくよ。<br>誘ったのに「いや」って言われた? | ★席を立つ児童がだんだん増える。<br>★周りの人たちに手を差しのべる<br>＊笑いがおこる | |
| | ☆はい！遠い宇宙までどうぞ、木星にも行って、土星にも行って、火星にまでも、ほら、行っておいで！海王星も、ほらそこ、あったね。<br>☆次も誘ってね。<br>☆宇宙を一回りしてごらん、こんなに広いの。<br>☆ずっと無限に続いている宇宙だよ。 | ★体の動きが一段と大きくなってくす。<br>★児童製作の側面掲示の惑星に近づく。<br>★教室いっぱいに広がりながら動く。 | 視点１－⑥ |
| | ＊CD 終了<br>☆はい、じゃあ座りましょう。 | ＊教室中央に座る。 | 表現活動Ⅴ<br>歌と言葉で表現 |
| | ☆どう？誘った？目を見た？<br>目を見たのに無視された？<br>☆笑われたの？<br>☆それは良かったね。笑顔なら、心が通じたね。 | ★多数挙手。<br>★「笑われた。」<br>＊笑いがおこる。<br>★「違う、笑顔だった。」 | |
| | ☆今度は歌です。もう、イメージ文なしですよ。<br>☆はい！じゃあ立って始めに読んでくれる人決めて！ | ★希望者多数　挙手 | 視点１－⑦ |
| | ☆美しく読んでください。<br>◇銀河鉄道の歌」ピアノ伴奏 | ★朗読と斉唱 | 表現活動Ⅶ<br>音楽づくり<br>歌唱表現<br>朗読表現 |
| | ☆それでは、班の発表に移りましょうか。<br>☆自分たちのご自慢の惑星にみんなを誘ってくださいね。<br>☆始めの班の惑星はどれですか？ | ■「天王星」の班挙手 | |
| | ☆どんな物語を・・・どんな音楽をつくってくれているか楽しみですね。 | | 視点２－① |
| | ☆歌おうか<br>◎発表の班の準備の間に聞き役の班歌わせる。 | ＊「天王星」の班演奏準備をする。<br>◎聞き役の班１番を歌う。<br>◇「天王星」の班創作発表 | 星のテーマ<br>「魔法の星」 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | | ①朗読１：僕たちは、魔法の国「天王星を」紹介します。この星は、銀河NO1の星です。魔法を使って、お菓子を食べたい人、病気で苦しんでいる人、魔法で治したい人、どんな人でも気軽にどうぞ。いろいろ魔法を教えます。<br>②演奏１<br>③朗読２：魔法学校大人気！お菓子のお家も作れます。オーロラ光る魔法杖でひとっ飛び。<br>④演奏２<br>⑤朗読３；気温の低さを利用した氷の城がありますよ。魔法の絨毯ひとひねり。<br>⑥演奏３<br>⑦朗読 4：この星みんなまだ二十歳。死ぬ事絶対ありません。時々病気はするけれど、杖をひと振り治ります。<br>⑧演奏４<br>⑨朗読５：魔法の星は、お菓子の城や氷の城があるので、一度魔法の星に来てください。 | 使用楽器<br>創作音<br>・スイングベル<br>・ビブラフォン<br>・シンバル<br>・オルガン<br><br>拍節的旋律と伴奏<br>・Sリコーダー<br>・ピアノ |
| | ◇拍手 | | 視点２－② |
| | ☆どうでしたか？失敗したところとか、良かったところを発表してください。 | □「笛の音が速くなって。」<br>□「間奏を間違えた。」<br>□「笛の音が少し低かった。」<br>□「いつもより音が…今日は硬かった。」 | →ア<br>→ア<br>→ア<br>→イ |
| | ☆「いつもより音が・・・今日の音は硬かった」この発言はすごいと言うかまるでプロですね。 | | |
| | ☆○○ちゃん緊張の連続だっね。今日はどうでしたか？遠慮しないで。<br>☆それはどうして…緊張して出なかったの…ということはもっと上手ということね。 | 笛の音が出なかった。<br><br>＊笑いが起こる。 | |
| | ☆その他の意見をどうぞ。 | 〈聞いていた児童の発言〉<br>□「○○ちゃんのビブラフォーンがすごくきれいだった。」<br>□「笛の息がそろっていた。」 | →ア<br>→イ |
| | ☆ありがとう。どうして音がそろうかわかる？練習したからだけ？調子がいいから？<br>☆横一列になって並んでいるのにどうして揃うんでしょう？ | ＊笑いが起こる。 | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | 先生は後ろから見ていましたよ。リーダーの呼吸で揃って入れたんですね。<br>☆まだまだ直せるところは直してくださいね。 | | 視点２－③ |
| | ☆「海王星」お願いします。 | ＊「海王星」の班準備をする。<br>◎聞き役の班１番を歌う。<br>◇「海王星」の班創作発表<br>・朗読１：夏といえば海！海といえば常夏の星「海王星」について紹介します。<br>⑪演奏１<br>⑫朗読２：照りつける太陽！<br>⑬演奏２<br>⑭朗読３：透きとおった海、魚と一緒に海底リゾート、お祭り気分で海と遊ぼう。<br>⑮演奏３<br>⑯朗読４：耳を澄ませば波の音<br>⑰演奏４<br>⑱朗読５：椰子の森いっぱい、輝く太陽、ふんわりそよ風。丘の上、風に飛びのりどこまでも虹と遊ぼう。<br>⑲演奏５<br>⑳朗読６：水泳の苦手なあなたもオリンピックに出られるかも、ぜひ、この星に来てください。 | 星のテーマ<br>「常夏の星」<br><br>使用楽器<br>創作音<br>・マリンバ<br>・ギロ<br>・マラカス<br>・ビブラフォン<br>・グロッケン<br>・トライアングル<br>拍節的旋律と伴奏<br>・Ｓリコーダー<br>・ピアノ |
| | ◇拍手<br>☆さあ、意見聞きたいな。<br>☆「透きとおった海」すばらしいね。<br>☆コンコンってところやね。ああ！惜しいね。コンコン…<br>☆でも、○○さんは入れたんですね。<br>☆まだまだ勉強の余地があるということですね。 | □「…鳴らせなかった。」<br>□「コンコンのところ…<br>□「鉄琴が下手だった。」<br>□「…あそこはいいけど…」 | →ア<br>→ア<br>→エ |
| | ☆何がそろわなかった？<br>☆波の音の時に隅っこでザザザって流していた音聞こえたね。誰と誰が鳴らしてたの？はい、よくできました。<br>☆「火星」お願いします。 | □「○○君が木琴演奏するところがあまりそろっていなかった。」<br>□「○○さんのギロがよかった」<br>□「波の音がよかった。」<br>＊「火星」の班準備をする<br>◎聞き役の班１番を歌う。 | →ア<br>視点２－④<br>→ア<br>→ア |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | | ◇「火星」の班創作発表<br>㉑朗読１：私たちは平和を愛する星「火星」について紹介します。<br>㉒演奏１<br>㉓朗読２：芸術の嫌いなあなたもこの星に来れば芸術家になれる。<br>㉔演奏２<br>㉕朗読３；センスの良さは天下一。「火星」は流行の最先端。<br>㉖演奏３<br>㉗朗読 4：星に流れる音楽はベートーベンに勝てるかも。ガラス細工はお手の物。きっといつかは、有名人。<br>㉘演奏４<br>㉙朗読５：絵のうまさは銀河一。光り輝く芸術はピカソもびっくり。<br>㉚演奏５<br>㉛朗読６：情熱名人は、マグマよりも熱いかも。<br>㉜朗読７：是非、勉強や生活にやる気のない人や絵に興味のない人は、一度情熱的な星「火星」に来てください。お待ちしています。 | 星のテーマ<br>「平和を愛する星」<br><br>使用楽器<br>創作音<br>・ティンパニー<br>・カスタネット<br>・ウッドブロック<br>・シンバル<br>・マリンバ<br>・ボンゴ<br><br>拍節的旋律と伴奏<br>・Ｓリコーダー<br>・ピアノ |
| | ◇拍手<br>☆○○さん、はい！<br>☆ここの中央たたかなかった？でも、今日の音大きかったよ。 | □「出だしが大きかったり、小さかったりしていました。」 | →ア<br><br>視点２―⑤ |
| | ☆でも、いいね。あのリズム…そう、天才です。だって、芸術の星…<br><br>☆芸術の王様やね。○○ちゃんはい、かぶって！。 | ◇王冠を見せる。<br><br>□「迫力があった。」<br>□「ピカソみたいだった。」<br>□「原始的だった。」<br>□「カスタネットもう一度やって…そう！うまい！」 | →イ<br>→イ<br>→イ<br>→ア |
| | ☆「木星」お願いします。 | ＊「木星」の班準備をする。<br>◎　聞き役の班１番を歌う。<br>◇「木星」の創作発表<br>㉝朗読１：僕たち私たちは、希望の　星「木星」について紹介します。みんな遊びの天才になれます。<br>㉞演奏１<br>㉟朗読２：おはじきしたりつりしたり。ゲームばっかりやってないで、外で元気に遊ぼうよ。どんな遊びもまかせてね。<br>㊱演奏２ | 星のテーマ<br>「希望の星」<br><br>使用楽器<br>創作音<br>・手拍子<br>・スイングベル<br>・モンキータンバリン |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | | ㊲朗読３：溢れる自然、あったかい風。陽気な子ども。透き通る空。<br>㊳演奏３<br>㊴朗読４：にぎやかな街。きらめく夜空。空飛ぶ人たち。ジェットコースター。天まで届く学校。子どもだけの宝物。<br>㊵演奏４<br>㊶朗読５：大人の人も子どものころに戻って遊びに来てください。この星だけの楽しさを味わってね。みなさん、是非、遊びに来てください。<br>㊷演奏<br>㊸朗読６：来てね。 | ・マラカス<br>・シンバル<br>・トーンチャイム<br><br>拍節的旋律と伴奏<br>・Sリコーダー<br>・ピアノ |
| | ◇拍手<br>☆すばらしいね。さあ、言いたい事は？ | □「行きあたりばったりだった。」 | →エ<br>視点２－⑥ |
| | ☆気にしないで！人生はそんなもんよ。<br>☆上手だった。○○君。びっくりしました。本当に上手になったね。 | ＊笑いが起こる | |
| | ☆何が上手だった？ | 「（口をそろえて）ハンドベル！」<br>□「本当にきれいな音が出ていた」 | →ア |
| | ☆先生もずっとそう思っていました。カスタネットも練習している時…この人絶対忘れずに入るだろうな…と | □「ベルでいい音だすのはむずかしそうだった。なんか、集中してた。」 | →イ |
| | ☆ハンドベルもう一度聞かせて。少し斜めに演奏すれば音が止まるよ。 | ●やってみせる。 | 視点２－⑦ |
| | ☆すっごくいいです。<br>☆「手拍子」のリズムって何を表現していたのでしょうね。 | ●ハンドベル・スイングベルで再演 | |
| | ☆おはじき遊びをみんなでしましょう。 | □「手拍子のリズムっておはじきを表している感じがしました。」 | →ウ |
| | ●子どもたちと手拍子部分を再演 | □「速くたたきたい」<br>●みんなで「手拍子」部分を再演<br>□「○○君の言葉がゆっくりで入りやすかった。」 | →イ |
| | ☆はい！ありがとう。少し長引いてしまいましたね。<br>☆次には全部つないで一つの宇宙物語にしましょう。<br>銀河鉄道に乗ってみんなのお勧めの惑星をお話と音楽、歌、動きでめぐって音楽室に帰ってきたいね。<br>☆すばらしい銀河旅行でした。 | | |

## 4　授業のねらいと効果の分析

表現方法の分析

| 活動の流れ | 教材 | 表現方法 |
|---|---|---|
| 表現活動Ⅰ | 「翼をください」 | 身体表現 |
| 表現活動Ⅱ | 「翼をください」 | 言葉（イメージ文） |
| 表現活動Ⅲ | 「翼をください」 | 声（歌唱） |
| 表現活動Ⅳ | 「銀河鉄道の歌」 | 身体表現 |
| 表現活動Ⅴ | 「銀河鉄道の歌」 | 声（歌唱）言葉（朗読・イメージ文） |
| 表現活動Ⅵ | 「銀河鉄道の歌」 | 音楽づくり |

・表現活動Ⅰ～Ⅲは、歌唱教材を活用する。歌詞や音楽のイメージで身体表現とイメージ文を即興表現することで「心の開放」をめざしている。

・表現活動Ⅳ～Ⅵは、その基盤にたった「音楽づくり」であり、発展的な活動をめざしている。

視点による分析　＊視点１（表現方法「声・身体・言葉」の活用）

| 視点１ | 教師の言語活動 | 児童の反応 |
|---|---|---|
| ① | 「音をよく聴いて」 | 身体の動きや移動場所が大きくなる |
| ② | イメージを膨らます言葉<br>「夢見て！飛んでゆけ！もっと！」等 | 曲想や構成A･Bを捉えた動きが出来ている。 |
| | 範唱ＣＤを使用→A･Bのテンポは変わらない<br>指導者の欲求と児童の実態にずれが表れる | |
| ③ | ピアノ伴奏 | 生き生きとしたイメージ文で表現できている。 |
| ④ | ピアノ伴奏 | 一人ひとりが言葉の表現をしている。 |
| ⑤ | ピアノ伴奏「息を吸ってしっかり」 | Bの部分の歌唱において拍の流れにのれない児童がいた。→「心の開放」が閉ざされた |
| | 指導者の解釈で→Bのテンポが約２倍になる。このことは、視点①での児童の実態の評価から指導者の解釈に近づかせようとテンポ上げ児童に刺激を与えた行為である。 | |
| | ・指導助言に音程・リズム・フレーズ感の具体的な指導助言が不足した結果 ⇨ | ・歌唱の基礎基本がゆらいでいる |
| ⑥ | 「遠い宇宙までどうぞ…ほら、行っておいで…」 ⇨ | 動きが大きくなる→「心の開放」が戻った。 |
| | ①～⑤と比べて表現の変化が表れた<br>テンポが一定している | |
| ⑦ | 「声、美しく、誰か読んでください」 | 希望者多数挙手する。自信を持った表現をる |
| | ⑥の開放がつながった表現が出来ている。 | |

＊視点２による分析（視点１の発展からの音楽づくりの活動）

視点２－①では指導者はグループ発表の活動評価に視点をあてるよう助言している。

・②～⑦の児童の表現の反応をア～エの４段階で捉えた。

> ア→情意面や技術面の着目による反応
> イ→音楽の要素の着目による反応
> ウ→イメージを具体的に構成につなごうとする思考からの反応
> エ→無意識な思考からくる反応

| 視点 | 音楽づくり | ア | イ | ウ | エ |
|---|---|---|---|---|---|
| ② | 天王星（魔法の星） | 4 | 2 | 0 | 0 |
| ③ | 海王星（常夏の星） | 5 | 0 | 0 | 1 |
| ④ | 火星（平和を愛する星） | 2 | 3 | 0 | 0 |
| ⑤ | 木星（希望の星） | 1 | 2 | 1 | 1 |

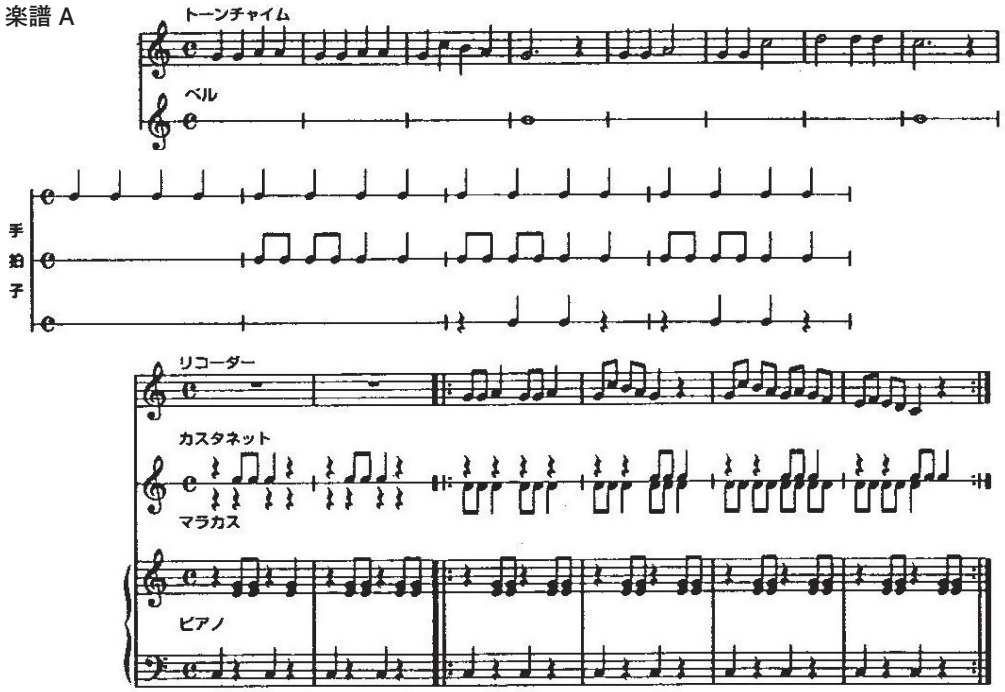
## 5　考察とまとめ

事例１及び事例２のような活動の積み上げが本授業の実践につながっていることは明らかである。視点１では表現方法（声・身体・言葉）の活用を教師の言語活動と児童の反応の関係を分析した。その結果、指導者の言語が児童のイメージ力を高め、心のゆれにつながる。児童の反応の変化が顕著に表れ、身体表現につながる。また、写真Ａでわかるように心が開放された伸びやかな表情が表れている。また、全員で身体表現することによりイメージの共有化がみられ、場の雰囲気が一つになっている状態である。心が開くことが歌唱活動にも有効であると仮定していたが、情操面においては効果が上がるが技術面では児童の反応を停滞させていることも考えられる。また、拍にのれない児童が目立った。これらは指導者の教材解釈と児童の実態にずれが生じていることと、基礎・基本のゆらぎによるものと考える。

**写真A**

視点２では、視点１の発展とした活動である「音楽づくり」の相互評価場面を分析した。その結果は視点②～⑤の反応は、ほとんどがアであった。そのことから情意面や技術面の相互評価では発言しやすいと考えられる。しかし、本時の授業構成にあたってはウの反応を多くすることが重要であるといえる。指導者はそれぞれのグループ発表に対して、関心・意欲・態度面からの価値付けや励ましを丁寧にしているが、音楽の諸要素、特に各星の雰囲気をかもし出す音色や音の重なりに対する気付きや工夫について価値付けたり、児童に切り替えして考えさせたり、発見させたりすることに焦点をあてる必要がある。児童の意識は自分たちの考えた星のイメージに合ったお話や音楽をつくる体験を意欲的に行っている。また、イメージを深めている表情や演奏に向かう意欲や集中力が活動中に多くみられる。それらは、指導者の目的に添った指導言が十分であると相互評価の児童の反応に良い変化がみられたからであると考える。

楽譜 A




楽譜Ａは、希望の星「木星」のイメージから希望に溢れた話を考え、その言葉から場面に合う音楽をつくったものである。楽譜の一部である手拍子のリズムは、児童の評価においてウの反応があった。これは「おはじき」のイメージと手拍子のリズムが結びついてより興味を持ったと考えられる。それと同時に指導者の指導言によって児童の反応も変化があった。指導者の指導言の工夫は児童により活発な反応をもたらすものと考える。また、このような体験を積み重ねさせることで協力して曲をつくったり、楽器の奏法を工夫したりしてそれぞれの楽器のもつ音質の美しさを求められるような児童に成長するであろう。

これら指導事例の写真や児童作曲の曲からは、「心の開放」の効果の表れた児童の様子が見て取れる。写真の伸びやかな表情は音や音楽からの刺激によって、身体が自由に、素直に反応

し、イメージの深まりによってより豊かな動きとなっていると考える。楽譜からは、自分たちの思いやイメージを音や効果音だけではなく、音楽とした表現の工夫が見て取れる。

その一方、指導者の働きかけにおいては、指導言の重要性を挙げたい。子どもたちの心に響く働きかけの工夫が必要であろう。

このような学習活動を積み重ねる中で、知識の向上だけでなく個性や創造性や協調性等が培われていくものであると考える。すなわち、身体表現を軸にすえた学習は子どもたちの心を開放し、子どもたちの心を落ち着いたものにし、更なる学習意欲の向上につながるのである。

以上のように、身体表現を軸とした音楽学習は、他教科学習と異なり、知識の習得以上に、「心の開放」によって、創造性・協調性が生まれることを可能にさせるのである。すなわち、音楽学習によって、「生きる力」につながる豊かな心の醸成が期待でき、知識の活用は精神の成長と密接不可分であるから、「心の教育」の履践の場としての音楽教育の意義は大きいと考える。

---

**〈引用文献〉**

文部科学省「小学校学習指導要領解説　音楽編」平成20年３月
柴　眞理子編「身体表現」東京書籍出版　1993年４月